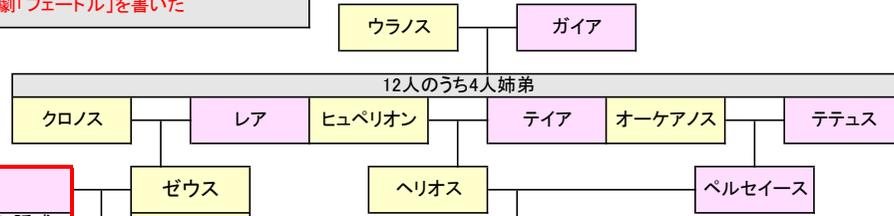


### 系図による「アリアドネとパイドラ」

- ・R・シュトラウスは、オペラ「ナクソス島のアリアドネ」を作曲
- ・ジャン・ラシーヌは、演劇「フェードル」を書いた



**エウロペ**

- ・ゼウスは牡牛に変身し誘惑しヨーロッパを廻り、最後にクレタ島に行き3人産んだ
- ・Europeの語源
- ⇒Seatオイディプス参照

**ミノス**

- ・養父のクレタ王アステリオスの後を継ぐ
- ・ミノスは、王国継承の見返りにポセイドンに牝牛を提供する約束を反故にしたので、妻パーシパエが、エロスの魔法の弓矢で牡牛を愛するという犠牲になった
- ・息子のアンドロゲオスが殺され、アテネにミノタウロスのための生贄を要求した
- ・アリアドネに知恵を授けたダイダロスを恨んでシチリアまで追いかけるが、入浴中に熱湯を浴びせられ死んだ
- ・しかし、冥界の審判官の一人になった
- ⇒Seatオイディプス

**魔女パーシパエ**

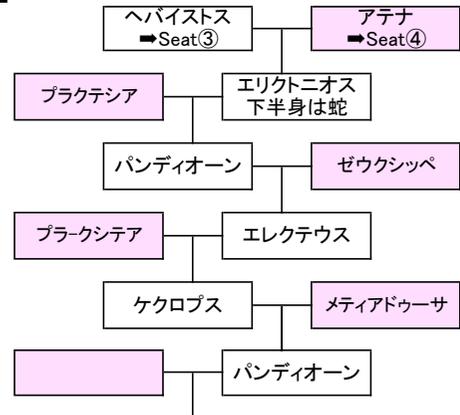
- ・クレタ島の大地の女神
- ・ヘリオスの娘で魔女キルケと姉妹
- ・メディアは姪になるのでアリアドネは従妹同士になる
- ⇒Seatメディア

**ミノタウロス**

- ・牛頭人身の怪物が生まれた
- ・アテネから9年毎に各7人の男女を受け入れた
- ・テセウスに殺された
- ・ピカソは愛好していた

**クレタの牝牛**

- 名工のダイダロスに命じ、密かに雌牛の模型を作らせ、パーシパエ自ら模型の中へ入り雄牛に接近し思いを遂げた



- ・激情したヘパイストスの精液が、処女神アテナに付着してしまいふき取ったところで生まれた
- ・アテナの初代の王は、ケクロプス
- ・そのエリクトニオスは、アテナが育てて、アテナの王になった

**アテネの王アイゲウス**

- ・子供に恵まれなくデルポイの神託所からの帰路、トロイゼンの友人オイッテウスの娘アイトラーと結婚しテセウスを授かった。
- ・自分だけアテネに戻ったが、テセウスが17歳になってアテネに来た。
- ・アイゲウスは、メディアとも結婚したがテセウスを息子とも知らず毒殺しようとするので、メディアとメードスを追放する
- ・息子テセウスのミノス王退治の時、殺されたものと勘違いし、絶望のあまり海へ投身自殺したので、エーゲ海となった

**アイトラー**

- ・父はピッテウス
- ・イナコス河口近郊トロイゼンの王女
- ・アイゲウスの指示通り、テセウスをトロイゼンで育て、その後一緒にアテネに移って過ごした。

**ゼウスとセメレの子**

**ディオニソス(英語バックス)**

- ・死んだセメレの胎児をヘルメースが取り上げ、ゼウスの大腿のなかに縫い込んだ
- ・デルセボネーに花を贈り、セメレを女神にして貰った。
- ・神々になったのは、ヘラを恨むヘーパイストスに酒を飲ませ、彼を酔わせた状態でオリュンポスに連行し、彼らの和解を取り持ったからである

8人兄妹のうち4人姉妹

<b>アリアドネ</b>	<b>カトレウス</b>	<b>アンドロゲオス</b>	<b>パイドラ(仏語フェードル)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アリアドネは、愛するテセウスの命を救うために、ダルダロスに頼みクレタ島の迷宮より脱出する手助けをした</li> <li>・テセウスに捨てられたがバックスと結ばれた</li> <li>・4人の子が居る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の息子に殺される神託があった</li> <li>・年老いてから、クレタ国王を息子アルタイムネスに引き継がせるつもりが、誤って殺された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツマンで全アテネ体育大会で優勝するほどであった</li> <li>・息子の死についてアテネ王アイゲウスに原因があると不信感を抱くミノスは、アテネに復讐することにし、ミノタウロスへの生贄を要求し、エーゲ海を支配した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テセウスと2人の子を産んだ</li> <li>・恋をアプロディテに吹き込まれ、義理の息子ヒュプリトスを愛してしまう</li> <li>・しかし、その恋は実らず、彼がテセウスに訴えることを恐れ、逆に自分に対して暴行を働いたと訴える</li> <li>・テセウスはこれ信じ、ヒッポリュトスは戦車に引きずられて死んだ</li> <li>・偽の遺書を残し自殺する</li> </ul>

**テセウス**

- ・アテネの王として、ミノス王支配下のクレタ島の迷宮に攻め込んだ
- ・ミノス王の娘アリアドネは、テセウスに惚れ、結婚を条件に赤い麻糸の輪と短剣をこっそり手渡した
- ・テセウスは、ミノタウロスを退治してアリアドネと出国するが、途中ナクソス島に寄り、飽きてしまったアリアドネを残してアテネに帰った
- ・カッパドキア近郊のアマゾンで、アンティオペとその子ヒッポリュテをさらって妻とした
- ・アルゴ一船探検隊(アルゴナウタイ)の冒険に参加し、金羊毛皮を捜し求めた
- ・冥界へ赴く以前は、アリアドネの妹パイドラを妻とした
- ・アプロディテの策略で、パイドラが自殺し息子ヒュプリトスが殺害された
- ・晩年、隠遁していたスキュロス島の王リュコメデスから誤解を受け、崖から突き落とされて死亡、アテネで埋葬された

**アンティオペ**

- ・テセウスのかつての妻アマゾネスの女王
- ・アレスの娘でヒュプリテは姉妹
- ・アンティオペはアマゾンを率いてパイドラとの結婚式を襲ったが、逆に殺された

**トアース**

- ・北部エーゲ海に浮かぶレームノス島の女たちは長年アプロディテに犠牲をささげなかったので怒りに触れ、女体から悪臭を臭わせた
- ・島の男たちは、トラキーアから女たちをさらって来て愛した
- ・島の女たちは島の男たちを皆殺しにしたが、ヒュンピュレーは父トアースをかくまった

神々	注釈	女神
娼楽を飲まれたパイドラ		アリアドネの恋

**ヒュプリュトス**

- ・アルミスと仲が良く、森の中で狩猟をしながら生活してたが、暴走した馬に轢かれて死亡した
- ・拒否したが、アプロディテからけしかけられたパイドラより愛を告白されたからである
- ・テセウスは、アルテミスからパイドラとの真相を聞き、後悔してヒッポリュトスを許し、ヒッポリュトスは父の腕の中で死んだ。
- ・アルテミスはヒッポリュトスの死を悼み、アスクレピオスを説き伏せてヒッポリュトスを復活させた
- ・死すべき人間を復活させたことにゼウスは激怒し、アスクレピオスを下界に落とした